

おかあさんがおこるとこわいから
「きれい」
と言う
ほんとうはふつう

(2) おとうさんの手 原 裕 [小1]

おとうさんの手は
ビールのおい
さけのおい
かいしゃのかばんのおい
日ようびは魚のおい
ボールのおい
ぼくはやきゅうをしてくれる
日ようびの手のにおいが
一ばんすきです

(3) 地球 平松祐梨 [小4]

地球はどんな時でもいつも
回っている
みんなをおなかに入れて
何年何千年も回っている
戦争があっても
火山がばくはつしても
でんとかんばっている
地球は私たちの母親です

(4) 八月十五日 丸山 紘一 (小3)

終戦記念日
どうして日本が負けた日が
記念日なの

このような詩を見ていくと、わたしにもつくれそうだと思うようになります。いや、ぜひつくってみたいと意欲がわいてきます。



張江 幸男 (はりえ ゆきお)

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA 顧問
前全日本空輸(株) 海外子女教育相談室長、元三菱商事
(株) 相談室長、元ニューヨーク日本人学校校長、元台北
日本人学校教頭

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA

〒145-0064 東京都大田区上池台 3-39-9
TEL : 03-5754-2240 FAX: 03-5754-2241
HP : www.jolnet.com



今回は「詩」がテーマで、詩作りの勧めです。

私が担任の補習校5年のクラスで、「全員で文芸作品コンクールに応募しよう」と、みんなで楽しく詩を作ったことがあります。その時の子ども達の作品が、風景・草花・出来事などを題材に、海外での日々の生活や思いが、独特な視点から、素直に表現されているのに驚いた思い出があります。ここで紹介されている海外の子どもの作品のように。

【4】海外にいる子どもの詩

海外にいる子どもたちは、日本とは違ったながめ、言葉や習慣に驚きます。その思いを詩に託して表現しています。

「地球に学ぶ」に掲載されている詩の中から、私の好きな作品をいくつか紹介しましょう。

(1) ロウソクが立った日

ロス・アンジェルズ補習授業校 小6 原田麻理

知らない字
知らない言葉
何もわからない毎日
チラッと見えた字
チラッと聞こえた言葉
チラッと光が見えた日
暗かった心の中に
ロウソクが一本立った日
見なれた字
聞きなれた言葉
自信が持てる今
心の中には
ロウソクがいっぱい

評：

外国に生活するようになった当初の不安が、次第に消えていって、毎日が楽しく過ごせるようになった、といった内容です。

その国の言葉や習慣がわからない、ということは、心の中が暗くなるような日々がちがいありません。いろいろなことが見えるようになる、ということと、ロウソクが立つということが関わっています。

(2) 我が家族 ジャカルタ日本人学校 中3 北岡宏教

父は日本人
母はインドネシア人
祖父はベトナムとユダヤの血がまざっていると
言われるバタック民族出身
ひいおじいさんはオランダ人
国際的な我が家族
複合民族大家族
僕はまるで世界各地にある虹の色を全て
持っているような気がする
先祖の皆様
この事に感謝します
先祖の皆様
この事を誇りに思います

海外子女教育振興財団では毎年、海外にいる日本人子女の文芸作品コンクールを行い、優秀作品を「地球に学ぶ」という一冊の本にして発売しております。俳句・短歌・詩・作文のそれぞれについて有名な先生方の批評が述べられています。この一冊が海外にいるみなさんの創作の良い先生になってくれるでしょう。

